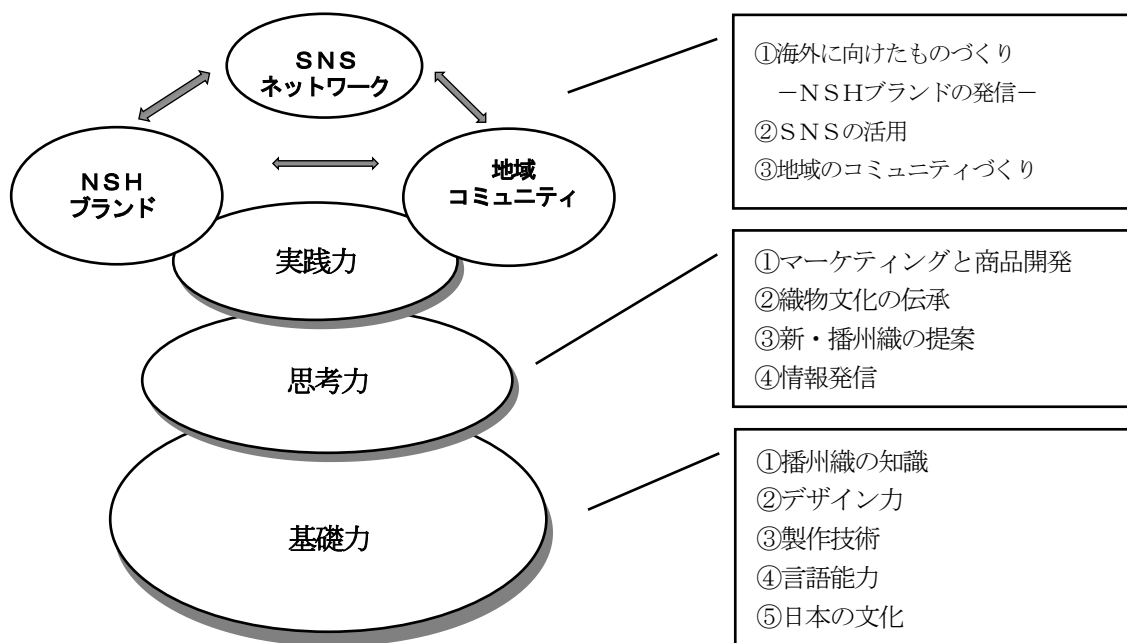


平成28年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題	
cool Japan cool Bansyuori —播州織再発見と西脇産ブランド発信—	
2 研究の概要	
<p>1 播州織の再発見と最先端技術から「新・播州織」の研究 播州織産地としての、伝統ある織物や昔ながらの職人技を再発見し、世界に誇れる技術や日本の文化、織物の文化を理解し、さらに最先端技術を身につけた将来の播州織スペシャリストを育成する。</p> <p>2 地域産業を活かした新たな「家庭に関する専門学科」の在り方の提案 播州織製品の企画・生産から加工・流通・販売までの一体的な学びを取り入れ、プランニング・デザイン・リサーチ・マーケティング・プロデュースをする力を身につけた地域産業を担う将来のスペシャリストを育成する。</p> <p>3 NSHブランド（西脇高校生活情報科ブランド）の発信 播州織のすばらしさとともに、NSHブランドとして、地域で学んだ播州織技術と日本の生活文化や技術を兼ね備えたオリジナルブランドを世界に向けて発信する。</p> <p>4 播州織で織りなす町づくり 播州織でつながる町づくりのすばらしさを再認識し、西脇高校から「播州織で織りなす町」を情報発信し、コミュニティづくりを行う。播州織を活用して地域の活性化をより一層進める。</p>	
3 平成28年度実施規模	
生活情報科を対象として実施した	
4 研究内容	
○研究計画	
第1年次	<p>cool Japan cool Bansyuori として世界に誇れる播州織制作の自信と自覚を持って、より一層レベルアップを目指し取り組む姿勢を養う。</p> <p>1 地場産業播州織の伝統や職人技を再認識するとともに、織や染め糸に関しても現場見学を通して理解を深める。また、最先端技術やコンピュータソフトの使い方を理解し、イメージした織物を組織から提案できる知識と技術を身につける。</p> <p>2 商品開発では、実際にアンテナショップや百貨店で販売を行い、消費者のニーズに応じた作品づくりを検討する。</p> <p>3 播州織を活用した町づくりをテーマにさまざまな提案を行い、現状と課題を把握する。</p> <p>4 日本の伝統文化について学習し、それらを取り入れたテキスタイルデザインを創造する。また、高校生らしいデザインや発想を表現し、地域の産元をはじめアパレル業界に提案する。</p>
第2年次	<p>地場産業に対する知識や職人技を活かし、新しい発想でのテキスタイルデザインの提案とものづくりに挑戦し、ブランド化を目指す。</p>

	<ol style="list-style-type: none"> より詳しく職人技や職業観などを理解し、織の表現を工夫し、コンピュータを使って、新しい発想の表現を目指す。 マーケティング分析を行い、オリジナル企画の商品の提案とそのブランド化を目指す。 企画の改善を図りながら継続して行い、いろいろな角度から町づくりを考える。 ファッションショーや地域でのイベントで発表し、より洗練された演出を目指す。
第3年次	<p>cool Japan cool Bansyuori で世界に誇れる情報を発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本の文化とともに織物の町西脇の文化と技術を学び、先染め織物と織りの知識を身につけ、製品化につながる「播州織」の提案を目指す。 洗練されたものづくり、商品の提案を目指す。 高校生が提案する企画によってユニークな町づくり、町の活性化を目指す。 NSHブランドといえる商品の提案を目指す。 学校設定科目の指導内容を確立させる。



○教育課程上の特例

原則履修科目「生活産業基礎」を学校設定科目「日本の文化と地域産業」で代替

○平成28年度の教育課程の内容

1年

「日本の文化と地域産業」(学校設定科目) 2単位

- ・「播州織」についての知識や工場見学を通して、地場産業の理解を深める。
- ・綿の栽培から糸を紡いで、草木染め、織物へと実際に体験を通して、日本の文化と織物について理解する。
- ・日本の文化を知る。

「ファッション造形基礎」2単位

- ・ミシン縫いの基礎から、実習着の製作を行う。
- ・アウターパンツ製作を通して、ズボンのパターンと縫製方法を理解する。
- ・裏付きスカート製作を通して、パターンの展開や裏地の扱い方を理解する。

「生活産業情報」 2単位

- ・パソコンの基本操作を習得する。
- ・ワープロ、表計算、プレゼンテーションの知識・技術を習得する。

2年

「ファッション造形」 4単位

- ・着物の構成を理解し、浴衣を製作する。
- ・シャツブラウスのパターンの展開を理解し、縫製技術を習得する。
- ・スモッキングの技法を習得し、応用した作品製作を行う。

「グラフィックデザイン」 2単位

- ・色彩についての基礎的な知識や配色を理解する。
- ・先染め織物ソフト (TEX-SIM) を活用し、テキスタイルデザインを習得する。
- ・服飾史からファッションを学び応用する力を身につける。

「フードデザイン」 (3単位)

- ・食品の栄養素について理解する。
- ・世界の食文化と日本の食文化を知る。
- ・調理技術を習得する。

「家庭情報応用」 (学校設定科目) 2単位

- ・コンピュータの知識とOfficeの活用技術を習得する。
- ・ネットワークについて知識とホームページ等の情報発信技術を身につける。

3年

「課題研究」 5単位

(服飾)

- ・播州織を生かしたデザイン力と、それを製作する技術力を身につける。
- ・ファッションショーを企画し、テーマに合った作品製作を通して実践力を養う。

(食物)

- ・地域の特産物を使った商品開発およびレシピを考案する。
- ・一日レストラン「梅吉亭」でのシェフ体験を通して、実践力を養う。

(福祉)

- ・社会福祉協議会と連携し、要約筆記や点訳ボランティアなど経験する。
- ・地域活動を通して、主体的に取り組む姿勢とコミュニティ能力を養う。

「生活産業とマーケティング」 (学校設定科目) 2単位

- ・マーケティングについて理解する。
- ・地域活性化プロジェクトを企画し、実践力を養う。

○具体的な研究事項・活動内容

1年目は、「基礎力」の習得を中心に研究を行った。「基礎力」である5つの力(播州織の知識・デザイン力・製作技術・言語能力・日本文化の理解)を身に付けさせるための取組を進めた。

2年目は、「思考力」の習得を中心に研究を行った。「思考力」を付けるための(1)マーケティングと商品開発 (2)織物文化の伝承 (3)新・播州織の提案 (4)情報発信 に取り組んだ。1年生では、日本の文化の理解から cool Japan を考察し、2年生では、これまでに学んだ知識や技術を統合してグループで共通理解を図りながらブランド企画を実践し、3年生では、「デザイン思考」の「ビジョン→共感→問題提起(課題)→創造(結論)→試作(行動計画)→検証」というプロセスを理解して実践していく中で、柔軟な発想力や想像力、課題解決能力や協調性、責任感を養うことができた。

本年度は、「実践力」の習得を中心に取組を進めるため、Made in Japan や cool Japan を意識して、海外に向けたものづくりや西脇高校オリジナルブランドを提案し、播州織の海外発信を目指した。また、播州織のテキスタイルデザインに限らず、様々な場面で、「デザイン思考」を取り入れ、ニュースや課題

を分析しながら、播州織を通じた地域の活性化やコミュニティづくりに取り組んだ。

(1) 海外に向けたものづくり—NSHブランドの発信—

様々な研修を通して学んできた日本人としての感性を活かすとともに、播州織の最先端技術や特徴を取り入れ、素材・色・組織・加工等を産元商社と連携して企画デザインを行い、新しい播州織製品を提案し、布地からアパレル商品までを自分たちでデザインした「NSHブランド」の発信に取り組んだ。

①国際フロンティア産業メッセ2016にて展示

神戸国際展示場で行われた西日本最大の総合見本市に出展した。オリジナルブランド「NSHブランド」として提案し、織りあがった布地やリカちゃん人形の衣装を製作し表現した立体的イメージマップなどを展示した。

②パリ研修での作品展示

上田安子服飾専門学校の協力で、リボンメーカー「SHINDO」のショールーム（パリ2区中心街）にて、播州織作品の展示を行い、本校の取組や日本の文化を発信した。

(2) SNSの活用

常に新しい情報発信を行うためSNSなどを活用し、「西脇高校のホームページ」等からの情報発信を中心に取り組んだ。

①ホームページの制作

2年生学校設定科目「家庭情報応用」（2単位）においてHTML言語を学習し、生活情報科のホームページ制作を行った。

②SNS

Facebook や Instagram を使って情報発信を行った。

(3) 地域のコミュニティづくり

地域と連携し、播州織を活用したワークショップ等を行い、コミュニティづくりに取り組んだ。

①「TUMAこいカフェプロジェクト」

店の暖簾や座布団カバー、スタッフのエプロン等を製作するほか、イベントの共催や運営の補助をすることにより、播州織を通して高齢者が活躍できる場所づくりとコミュニティづくりの拠点を考えた。

②「親子ソーイング教室」と「僕も私もデザイナー」

世代を越えたものづくりの提案や、デザインした服を実際に子供たちと高校生と一緒に製作しファッションショーで披露することで、播州織の普及とコミュニティづくりに取り組んだ。

5 研究の成果と課題

○実施による効果とその評価

<実施による効果>

(1) 海外に向けたものづくり—NSHブランドの発信—

地元だけでなく、様々な場所で展示発表し、播州織や自分たちの活動を説明することで、播州織に対する理解や地場産業に誇りや愛着を持つことができた。

①国際フロンティア産業メッセ2016にて展示（ベスト展示賞 受賞）

来場者に積極的に声掛けをし、播州織を通じた地域活動の取組の説明を行うことで、自信や誇りを感じることができた。また、2日目に行われたプレゼンテーションも多くの方に情報発信することができた。

<生徒感想>

- ・「なぜ高校生が？」と少し批判的な言い方をされる方もおりましたが、自分たちの活動を説明していくことで理解し興味をもってもらえることができました。そして自分たちが行っている活動は、多くの会社の方からも興味を持ってもらえることだと実感し、自信を持つことができました。
- ・「衣装は販売しているの？」と質問がありました。販売してみたいと思いました。
- ・言葉遣いだけでなく、伝え方やコミュニケーションのとり方、臨機応変に対応すること、質問に対して的確に答えるための情報をもつことなど、改めて大切だと思いました。

②パリ研修での作品展示

播州織浴衣や播州織衣装を着て、街頭で呼び込みをし、多くの方に展示を見ていただくことができた。また、播州織や日本文化のすばらしさを発表することができた。

<生徒感想>

- ・パリのこのような高級地区のショールームで展示ができたことは、本当に素晴らしいことだと思った。展示の実施にあたり支援をしていただいた方々に感謝したい。
- ・多くの方が播州織に興味を示してくださったことにとっても驚いた。「播州織ってすごい」と、改めて思いました。
- ・現地の方に「素晴らしい。日本の高校生がこのような活動を行っているということをもっと広めていくべきだ。」と言っていた。自分たちの活動に自信を持つことができました。
- ・来ていただいた方は、現地高校生の日本語の講師、デザイナー、区役所の方などでした。これからの活動に繋がる手がかりを見付けることもでき、アドバイスもたくさんいただくことができました。

(2) SNSの活用

広く情報発信するために、ホームページやSNSを活用することで、生徒は意欲的に興味関心をもって活動を行うことができた。

①ホームページの制作

何をどのように発信するかを主体的に考えさせ、多くの生徒が関わり活動できるような組織を構築することが課題である。

②SNS

生徒にとっても身近で、様々な情報源となっている。有効な活用方法を検討する必要がある。

(3) 地域のコミュニティづくり

生徒が参加し体験するだけでなく、これまでの活動を継続させたり、次の活動に繋げて行ったり、多くの人を巻き込みながら新しい取組に広げていくことができた。

①TUMAこいカフェプロジェクト

高齢者施設の方を招待し交流を持ったり、編み物の得意な方に指導していただいたり、多くの方を巻き込んだイベントを考え、コミュニティを意識した新しい取組や連携をとることができた。

<生徒感想>

- ・司会進行を行っている、伝わりにくかったり、敬語が使いなかつたり、うまくできませんでした。正しい敬語や伝えたいことが言葉としてさっと出てくるように、もっと話す力をつけたいといけ、そのためにも新聞や本を読まないといけ、と思いました。
- ・高齢者との交流は、入学した当初苦手でしたが、何回か交流しているうちに、楽しいと思えるようになりました。特に今回のように、ゆっくりお話をするときは、昔話や思い出を、ニコニコ楽しそうに話してください。たまに同じことを何度も何度も聞いてこられたり、話されたりしますが、何度話しても笑顔で、こちらまで笑顔になれることがとても楽しいです。
- ・認知症の方とたくさんお話しをしました。同じ話をしているようでも、実は少し話が変わっていたり、前に話している内容をさらに広げたものだったりしました。交流会が終わってから、「よく耐えとったなあ。大変じゃなかったの？」と言われましたが、私は全然そんなことは思いませんでした。むしろ話の内容がよく分かって、自分からも話しかけやすかったです。対応の仕方など学ぶことがたくさんあったいい交流会でした。

②「親子ソーイング教室」と「僕も私もデザイナー」

播州織を活用し、親子でものづくりの楽しさや手作りのあたたかさを感じたり、子供のデザインから高校生と一緒に衣装を製作し、ファッションショーを行ったりして、世代を越えた活動を行うことができた。

<参加者の感想>

- ・材料をもらった時は「もうここまで仕上げているの！」と思いましたが、まだ不慣れな子供が短時間に完成させるためにはありがたい配慮でした。企画・準備から後片付けまで大変お世話になりました。可愛くて優しいお姉さんに教えてもらいながらのソーイング教室はとても楽しかったようで「お母さんのエプロンも私がやるわ」と娘が縫いました。少し歪んだ縫い目のお揃いのエプロン、大切にします。(保護者)
- ・年の離れたお姉さんに、優しく教えてもらえたので、いつもより集中してできていました。完全に子供をお任せできたので、違う一面を見ることができました。(保護者)

- ・はじめてミシンをつかってとてもたのしかったです。毎日つくったエプロンをつかっています。高校生のおねえちゃんにおしえてもらってわかりやすかったです。家にミシンがないのでミシンがほしいなと思いました。(子供)

<評価>

ア 授業や行事等の実践に対する生徒の変容 (1年40名、2年38名、3年40名の自由記述から)

<1年生の分析>

- ・努力することの大切さ、努力を怠らない、努力した分強くなれる、練習し続けることなど努力することを学んだとする生徒が最も多い。
- ・情報でのブラインドタッチや被服の基礎縫いなど技術の習得が多い。
- ・自分で考える、先のことを考えて行動する、先を見通して行う、周りを見て行動するなど、主体的に考えることを学んでいる。

<生徒感想例>

中学校までは、言われたことだけを忠実にして満足していた。高校ではそれではだめだと気づかされた。

<2年生の分析>

- ・主体的に積極的に取り組もうとしている。何事にも挑戦すること、興味を持って取り組む、チャレンジしていく大切さ、積極的に課題に取り組む、などいろいろな場面で主体的に考え取り組むことを意識している。
- ・2年生では、調理実習やグループ学習において、協力することや協調性を学んだとしている生徒が多い。

<生徒感想例>

多い課題にも前向きに取り組む仲間を見て、積極的な態度で取り組むことができるようになった。

<3年生>

- ・課題研究での福祉活動やイベントが増え、コミュニケーション能力を挙げている生徒が多い。
- ・様々なプロジェクトやイベントを主体的に実施することで、企画力や発想力、対応力や段取り力などが身についている。

<生徒感想例>

教えてもらったことをどれだけ自分のものにするか、指示されたことをどれだけ受けとめるか、頼まれたことをどれだけ快く引き受けるか、それは全て謙虚さが大切だと思いました。そして頼られる信頼される人間になっていくと感じました。

イ ファクター分析の考察

- ・多くの生徒が地域活動や行事、専門教科の学習を通して様々な力を身に付けることができたと感じている。地域活動や行事への参加を通して得たものとして主体性や積極性、協調性に加え、企画力や発想力を挙げる生徒が多いことは、3年間のSPH事業の取組の成果である。
- ・専門教科の学習を通して、技術力や技能の向上を図ることができたと答える生徒が多いことは、家庭に関する学科としての基本的な目的が達成できているものと言える。
- ・平素より専門的職業人に求められる企画力や調整力の向上を目指して、様々なイベントや行事を生徒に計画の段階から担当させてきた。主体性や自主性については平素の授業や実習等の時間を通して身に付けさせた。
- ・全ての生徒に個々の状況に応じた難関を設定し、適度な課題を与えることを意識しながら指導にあたった。このような日々の活動が生徒の様々な力の向上につながったと思われる。
- ・それぞれの教育活動を行う際に、生徒にどのような力を付けさせたいか、指導に当たる教員が目標を明確にしたうえで共有し指導していくことが必要である。専門的職業人として求められる多くの資質を身に付けさせるうえで、留意すべき点である。

ウ 家庭に関する学科の在り方

①専門教科指導 アンケートの結果から、教科指導の在り方をまとめた。

- ・1年生では、基礎基本の技術の習得において、「全面制御学習」から「有意味受容学習」を行い、目標を明確にしながら努力する姿勢を養う。

- ・2年生では、「誘導発見学習」やグループ学習を取り入れながら、考えさせ取り組む姿勢を養う。授業を通して主体的、積極的な態度、協調性を身に付ける。
- ・3年生では、主体的に企画、実践を行い、プロジェクトチームで活動する「独り立ち学習」を行う。

②地域行事・地域交流

・西脇市との連携

西脇市ファッション都市構想の企画にできるだけ参加していく。

播州織ファッションショーやイベントなど連携体制を密にしていく。

姉妹都市レントンとの交流を図り、グローバルな視点での取組の機会とする。

・播州織産業界との連携

地域に学び、高度な技術と職人の思いを知り、地元の誇りと愛着を育てる。

高校生の発想でオリジナル播州織の企画、提案の機会をシステム化する。

・卒業生との連携

地域で活躍している卒業生と連携し、地場産業「播州織」の専門的な学習が継続して行えるシステムを構築する。



*目標を明確にして取り組む
→デザイン思考で考えさせる。

*依頼に対して、できる方法を考え臨機応変に対応する。
→範囲や内容を工夫する。
→生徒が直接対応し、主体的に企画、計画、実践する。

○実施上の問題点と今後の課題

<実施上の問題点>

・専門的な研修の確保

活動が多方面で専門性が高く、新しい取組を行うためにも研修が必要である。講師や研修内容の検討と時間の確保が困難である。特にSNSに関しては、教科を越えた連携や研修を検討していく必要がある。

<今後の課題>

3年間のSPHの取組において、生徒はそれぞれが自分の力を精一杯発揮し、明るく生き生きと取り組んできた。個々が自立し主体的に取り組みながらも、チームワークをもって一つのものを作り上げてきた。これらの取組を通して得ることができたリーダーシップや責任感、こだわりをもちながらも協力していく力は、スペシャリストとして必要な資質である。また、専門教科の学習で知識・技能を習得させるだけでなく、実践的・体験的な活動を通して、その根底にある理論を理解させるとともに、生活産業に従事するスペシャリストとして、望ましい勤労観や職業観をもたせ、生涯にわたって学ぶ意欲を身に付けさせることも重要である。

本年度は、従前より行っている資格取得や技術検定に加え、全国レベルのコンテストや大会に挑戦させるなど、目標を持った意欲的な学習を通して課題を探究し、自ら考え行動し解決する力、適応していく力を身に付けさせるとともに、コミュニケーション能力や協調性、積極性、創造性に加え、職業人として必要な人間性や規範意識、倫理観等の育成についても念頭に置き指導した。

SPH研究指定で取り組むことができた内容を、今後、いかに継続させていくかが課題である。手法や内容が変わっても本質的なものは普遍的に指導が続けられることが必要である。このため、教師には発想力と柔軟な対応力が試されるが、本校の場合は、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育とそのための工夫がさらに必要と感じている。また新たなプロジェクトが始まる思いである。